

第 35 回マリンボールカップ男子 B ゾーン決勝 7 月 27 日(日)

長泉ミニバスケットボールクラブスポーツ少年団(静岡)32 vs 68 中沢ミニバスケットボール部(横浜中部)

1Q 長泉#13 のミドルシュートからゲームがスタートする。長泉は、ハーフからのゾーンディフェンスで中沢のドライブインを防ごうとするが、中沢は、中外とパスを回してディフェンスを崩していく。また、シュートを外してもオフenseリバウンドをものにし、セカンドショットをきっちりと決めていった。

長泉は、中沢のオールコートディフェンスをドリブルやパスで崩そうとするが、厳しい中沢のプレスに対応することができない時間帯が続いた。

ラスト 2 秒、長泉#4 が中沢のパスをカットしドライブからのレイアップシュートで 1Q が終了する。長泉 9-中沢 14

2Q 長泉は、中沢の早い攻めと足元まで寄られる厳しいプレスに対応出来ず、パスミスで連発してしまう。中沢は、そのミスを実に点数へと繋げる。長泉はフロントコートで選手が潰されてしまい、バックコートに入れない時間が続いた。中沢は、ルーズボールを必ず取りにいく粘り強いディフェンスの為にファウルが溜まっていった。

2Q 後半になるとチームファウルが 4 つとなり長泉にフリースローを与えるも、長泉は得点にすることができず、2Q の得点が 0 点で終了してしまう。長泉 9-中沢 42

3Q 中沢の厳しいディフェンスは 3Q になっても衰える事はなく、長泉のミス誘いを、早い速攻で得点にしていった。しかし、長泉も反撃を開始。#4 がドライブからカウントショットをとり、フリースローを確実に決め、その後すぐにパスカットからレイアップと連続得点をし、流れが長泉に傾いたように見えるも中沢は焦ることなく、ディフェンスの状況をよく見て修正をし、流れを渡さない。

長泉は、点差をつめるべくディフェンスラインを高くし、厳しいディフェンスをすることで中沢のミス誘うも、そのミスを得点にすることができない時間が続いた。しかし、3Q 終盤には中沢のディフェンスに対応してきた長泉の#4 と#7 がゴールに積極的にむかい得点を重ねていく事ができた。流れが長泉に傾いて、3Q 終了。長泉 22-中沢 54

4Q 長泉ボールからスタートするが、パスミスで中沢ボールとなってしまう。焦りからか、ファウルをしてしまい、中沢#5 にフリースロー 2 本を決められてしまう。

長泉は、諦めず粘り強いディフェンスをし、中沢のミス誘っていったが、なかなか得点にならず、苦しい時間が続いた。中沢は、ミスはあるものの落ち着いて対応し、着実に点数を重ねていった。

4Q 後半になると、中沢は交代をして元気な選手を投入した。その結果、ディフェンスにスピードが戻り、長泉を苦しめていった。長泉は、5 人全員で積極的にシュートを狙い点数を取りに行ったが前半の点差をつめる事ができずそのまま試合終了。長泉 32-中沢 68